

令和3年度 宇都宮市立宮の原中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

- 基本目標 『未来を拓く日本人を育てる』
- 具体目標（目指す生徒像） ・創造性に富む人 ・心豊かな人 ・最善を尽くす人
- 校 訓 自主創造

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

☆テーマ 『豊かな心をもって、自律・実践する生徒の育成』

－ 希望・創造・感動 の校風をめざして －

今、日本の社会は、大きな変化の時代を迎え、多くの若者にとって、夢を抱きにくい社会になったともいわれている。しかし、社会がどのように変化しようと、人がその社会を生きていく厳しさは今でも変わらない。まして、生徒や家庭を取り巻く状況は現在、日ごとにその厳しさを増していると同時に、教育現場への要求は限りなく、私たちの眼前に掲げられている。

だからこそ、その社会を生きていく生徒たちは、困難や試練に負けずに生き抜いていく強さとたくましさ、そして、しなやかさをもつこと、人への思いやりや感謝する心、感動する心などを育てていくことが重要である。

そのためには、中学生という多感な時代に「希望・創造・感動」の世界を広げてやることが本校では必要であると考え。希望は未来を創造し変えていく力、創造は生きる意欲と知恵、感動にはやる気を起こさせ、社会に生きて働く力や自己肯定感、生きる優しさを育む力がある。そのような校風をつくることによって、自律（自分で立てた規則に従って、自分のことは自分でやっていく力）・実践（粘り強く取り組み、それまでなかったものを作り出す力）する力が生徒一人一人に身に付くものとする。よって、その育成のために、全職員が生徒と正面から向き合って、生徒の一人一人の「よさ」を認め、ほめて伸ばす教育活動を実践していく。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○生徒の「生きる力」を育成するために個に応じた教育を進め、地域に根ざした活動を展開し、豊かな心、確かな学力、健康や体力の育成に努めます。
- (2) 教育目標の具現化をめざし、**全教職員が意欲と使命感を持って学校経営に参画し**、生徒や保護者等の信頼や期待に応える学校づくりに努めます。

〔宮の原地域学校園教育ビジョン〕 心豊かで 輝く子どもの育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を目指し、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成を重視した指導を徹底し、個性を生かす教育の充実を図るとともに、生涯教育の基盤を培うことをねらって教育課程を編成する。
- (2) あらゆる教育活動の中で、また、学校・家庭・地域社会が一体となり、「学びあい、喜びあい、励ましあう」活動内容及び場を設定し、生徒と教師、生徒同士及び地域の人々との交流を深めながら、お互いのよさを認め合い、信頼し合い、豊かな人間関係の構築を図り、特色ある学校づくりを目指した教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学 校 運 営】・豊かな心をもって、自律・実践する生徒の育成 — 希望・創造・感動の校風をめざして —
- 【学 習 指 導】・自己の課題を意識し、主体的に学び取る度の育成
—○基礎・基本の定着を目指した魅力ある授業を通して—
- 【児 童 生 徒 指 導】・善いことを認め、ほめて自尊感情を育む基本的生活習慣の育成
—○元気なあいさつ、きまりを守る態度を育てる—
- 【健康（体力・保健・食・安全）】・自分の健康や体力向上・安全に高い関心をもつ生徒の育成
—教科体育・学校行事の充実と健康や安全意識の高揚—

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 生 徒 の 姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」⇒ 教職員の肯定的回答 90%以上	①○毎時間の授業の中に、授業の「ねらい（課題）」と「振り返り」を定着させ、生徒が目的意識を持って主体的に授業に参加できる体制を作る。 ②○わかりやすい授業展開を継続するとともに、『宇都宮モデル』を踏まえた授業における「課題提示」と「振り返り」の習慣化、生徒のコミュニケーション能力を高めるための授業の工夫を行う。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 98.0% で前年度を 4.0 ポイント、市平均を 1.3 ポイント、指標値を 8.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】根本的な部分で、引き続き学校全体が落ち着いていて授業に真面目に取り組める雰囲気作りを大切にする。また、 <u>小学校とも連携して、毎回の授業における「課題提示」と「振り返り」の習慣化、更なるコミュニケーション能力向上の工夫を図る。</u>
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」⇒ 教職員の肯定的回答 90%以上	①通常の学校生活や学校行事など、様々な機会を捉えて、思いやりの心の大切さを指導していく。また、帰りの会などで思いやりのある行動をとった生徒等の事例を紹介、称賛することで啓発していく。 ②道徳の授業で指導内容項目「B-(6) 思いやり、感謝」の指導において、教材研究を熱心に行い、充実かつ生徒の心に響く授業を展開していく。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 93.9% で前年度を 2.1 ポイント、市平均を 1.1 ポイント下回り、指標値を 3.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】些細なことであっても「思いやりのある言動」を取った生徒に対してさりげなく個別に褒めたり、時には全校または学年・学級にその言動を紹介して称賛したりする。また、道徳の授業で指導内容項目「B-(6) 思いやり、感謝」の指導に更に力を入れていく。
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】全体アンケートで同様の設問の 生徒の肯定的回答 90%以上	①○同一歩調による生徒指導体制を構築し、組織的対応で進めることで生徒の規範意識を高めるとともに、リーダー育成の機会を増やし、自立的な生活態度を育てる。 ② 計画的な巡回指導、生徒一人一人に目を向けた細やかな指導を通して、問題の早期発見・早期解決・再発防止に努めるとともに、家庭と連携しながら長期的な視野で生徒の変容を支援する段階的な指導体制作りを進める。また、生徒の些細な変化に対する情報交換がしやすい職員間の雰囲気も大切にする。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は 92.7% で前年度を 1.2 ポイント下回り、市平均を 2.1 ポイント、指標値を 2.7 ポイント上回った。 【次年度の方針】学校生活の中で秩序がきちんと保たれることがすべての学校活動の根幹である。教職員が常日頃より生活指導を中心とした共通理解を図り、何事にも組織的に対応していく。また、生徒会活動や部活動などを通して、リーダーの育成に力を入れ、自治的・自立的な集団にしていく。さらに、 <u>問題行動の予防・早期発見・早期解決・再発防止に努め、生徒の些細な変化に対する情報交換がしやすい職員間の雰囲気を大切にする。</u>
	A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケートで同様の設問の 教職員の肯定的回答 90%以上	①○日常的教育活動全般を通して、相互の人格を尊重し合う態度を育てるとともに、定期的実施している生徒会によるあいさつ運動等、あいさつ励行の実践の機会を設ける。 ②生徒会の定期的なあいさつ運動や、教職員の登下校指導の際のあいさつ励行等に力を入れていく。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 95.9% で前年度を 1.9 ポイント、市平均を 7.3 ポイント、指標値を 5.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】日常的教育活動全般を通して <u>お互いの人格を尊重し合う態度、そのためのあいさつの重要性をしっかりと指導していく。</u> そして、実践としては生徒会の定期的なあいさつ運動や、教職員の登下校指導の際のあいさつ励行等に継続して力を入れていく。

A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。(A 7 共通) 【数値指標】全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」⇒生徒の肯定的回答 85%以上	①〇昨年度から導入された「宮・未来キャリア・パスポート」を活用して、小学校から継続したキャリア教育に力を入れる。また、常日頃から将来の目標に向かって日々努力していくこと。諦めずに粘り強く学習や運動などに励み続けることの大切さを指導していく。 ②〇進路指導主事を中心に、3 学年はもとより 1、2 学年の保護者会等においても生徒及び保護者に進路指導を行い、小学校も含め継続的な努力の大切さを啓発していく。	B 【達成状況】生徒の肯定的回答が 84.5%で前年度を 2.0 ポイント、市平均を 1.7 ポイント、指標値を 0.5 ポイント下回った。 【次年度の方針】<u>小学校と連携した「キャリア教育における基礎的・汎用的能力」の実態把握アンケートの実施など、継続的なキャリア教育に力を入れ、生徒が自らの適性をつかみ、将来への夢や希望をふくらませ、実現に向けて今何をすべきなのかをしっかりと考えることができるようにしていく。</u>また、進路指導主事を中心に、中学 3 年生になってからの進路指導ではなく、1、2 年生のうちから職業人に学ぶ会や職場体験学習などをきっかけにして、家庭における職業や進路に対する話し合いの大切さを保護者に啓発していく。
A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体アンケートで同様の設問の生徒の肯定的回答 90%以上	① 生徒会保健体育委員会や生活安全委員会を中心に生徒会等の活動の充実を図り、健康体力の向上や感染症を含む病気やけがの予防、登下校時の安全や校内での安全な生活などを意識した生活が送れるよう啓発していく。 ② 養護教諭や生徒指導主事、交通安全係を中心に、保健体育科の授業に加わったり、定期的な登下校指導、安全点検等を行ったり、具体的な活動をしていく。	B 【達成状況】生徒の肯定的回答が 95.1%で前年度を 0.6 ポイント下回り、市平均を 0.8 ポイント、指標値を 5.1 ポイント上回った。新型コロナウイルス感染症の収束が見えないため、前年度同様高い肯定的回答であった。 【次年度の方針】生徒会保健体育委員会や生活安全委員会を中心に、生徒たちが自主的、自発的に健康や安全の大切さを学び合い、健康体力の向上や感染症を含む病気やけがの予防、危険を察知し、安心・安全な生活ができるような知識・技能を育てていく。また、保健体育科の授業や交通安全教室等を活用し、命の大切さも指導していく。
A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】全体アンケート(A 5 共通)「生徒は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 道徳の授業において、特に指導内容項目「C－(12)社会参画、公共の精神」、「C－(13)勤労」に力を入れると共に、常日頃より「夢や目標をもって、社会に貢献していく」ことの大切さを指導していく。 ② キャリア教育の一環である 2 学年で行う社会体験学習(宮っ子チャレンジ)において、当日のみならず事前・事後指導も充実させ、社会に貢献できることの素晴らしさや夢や目標を持つことの大切さを学ばせる。	B 【達成状況】教職員の肯定的回答が 81.6%で前年度を 6.4 ポイント、市平均を 2.3 ポイント、指標値を 3.4 ポイント下回った。教職員のとても思うと強い肯定的回答が 20.0%から 6.1%と大きく下降した。コロナ禍による将来への不安感と社会貢献の困難さを教職員も感じていると考えられる。 【次年度の方針】道徳の授業において、特に指導内容項目「C－(12)社会参画、公共の精神」、「C－(13)勤労」の授業に力を入れたり、2 学年における社会体験学習を生かしたりすることによって生徒に自ら学ばせ、体験させ、「夢や目標をもって社会に貢献していくことの素晴らしさ」を指導していく。

A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、英語の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」⇒生徒の肯定的回答 85%以上	①○小学校の「外国語活動」や「外国語」の指導内容の理解に努め、小中一貫教育・地域学校園の教科部会において連携を図りつつ、コロナ禍のため表現活動の制限はあるが、中学校の「外国語」の授業においてできる限り英語でコミュニケーションをとれるように指導していく。 ②ALTにはできるだけ生徒との交流を持ってもらい、授業中のみならず、休み時間等の雑談等でも英語でコミュニケーションをとるよう促していく。	B 【達成状況】生徒の肯定的回答が 85.5%で前年度を 0.4 ポイント、市平均を 0.5 ポイント下回り、指標値を 0.5 ポイント上回っている。コロナ禍のため表現活動の制限されたことが肯定的回答低下の要因とも考えられる。 【次年度の方針】<u>小学校の「外国語活動」や「外国語」の授業とも連携し、中学校の「外国語」と共に授業中に使う言語をできるだけ英語とするよう心掛ける。そのためにもALTをうまく活用し、授業や休み時間のコミュニケーションを英語で行うよう促していく。</u>
A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている」⇒生徒の肯定的回答 80%以上	①○小中一貫教育・地域学校園の教科部会において連携を図りつつ、社会科や道徳科、総合的な学習の時間に位置付けた「宇都宮学」を行い、「宇都宮の良さ」を自発的な学習を多く取り入れながら指導していく。 ② 道徳の授業において、特に指導内容項目「C－(16)郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する心」の授業を充実させていく。	A 【達成状況】生徒の肯定的回答が 78.3%で前年度を 1.7 ポイント上回り、市平均を 3.0 ポイント、指標値を 1.7 ポイント下回った。前年度と比較すると生徒の肯定的回答はわずかな上昇であるが、教職員の肯定的回答は 19.4 ポイント、保護者の肯定的回答は 13.5 ポイントも大きく上昇した。学習の様子を各種たよりや学校HPを通して保護者や地域に発信し続けた成果と考えられる。 【次年度の方針】総合的な学習の時間に「宇都宮学」を年間指導計画に位置づけるだけでなく、<u>小学校とも連携し社会科や道徳科で「宇都宮の良さ」に気付かせる自発的な学習を多く取り入れながら指導していく。</u>
A 10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】全体アンケートで同様の設問の教職員の肯定的回答 85%以上	① 各教室の大型テレビにデジタル教科書等を映し出したり、1人1台端末を活用したりするなど、ICT機器を積極的に活用していく。 ②○小中一貫教育・地域学校園として小学校低学年のうちからICT教育に力を入れ、パソコン等の情報機器の活用慣れ親しませていく。また、指導する教職員の研修を計画的に行う。	A 【達成状況】教職員の肯定的回答が 95.9%で、前年度を 14.3 ポイント上回り、市平均より 0.7 ポイント下回り、指標値を 10.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】1人1台端末を、各教科・各領域だけでなくあらゆる学校活動において積極的に活用する。そのためには、<u>指導する教職員の研修を充実させ、校務等にも積極的に活用する努力を行っていく。また、調べ学習以外の図書室の利用方法を周知し、積極的な活用を促す。</u>
A 11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート(A 2 共通)「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 道徳の授業における指導内容項目「B-(6)思いやり、感謝」、「B-(14)家族愛、家庭生活の充実」の指導を充実させていく。 ② 体育祭における「高齢者招待(歓迎の言葉)」等の機会を捉え、平日頃より高齢者に対する感謝やいたわりの心を持つように指導していく。 ③○小学校に加えて、家庭、地域とも協力し合い、幼い頃から高齢者への感謝の気持ちを育てるような啓発活動を行う。	B 【達成状況】保護者の肯定的回答が 91.7%で前年度を 2.3 ポイント、市平均を 0.8 ポイント、指標値を 6.7 ポイント上回った。 【次年度の方針】道徳の授業における指導内容項目「B-(6)思いやり、感謝」、「B-(14)家族愛、家庭生活の充実」の指導を充実させていく。また、体育祭における「高齢者招待(歓迎の言葉)」等の機会を捉え、平日頃より高齢者に対する感謝やいたわりの心をもつように指導していく。更に、家庭、地域とも協力し合い、<u>幼い頃から高齢者への感謝の気持ちを育てるような啓発活動を行う。</u>

A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている」⇒生徒の肯定的回答 80%以上	① SDGs等については、社会科や理科、技術・家庭科、道徳科、総合的な学習の時間等を中心に、教科等横断的な視点で各教科等の関連付けを図りながら教育課程を編成し、問題解決的な学習を充実させる。 ② 生徒会執行部による「届けよう、服のチカラ」プロジェクトへの参加や、生徒会福祉委員会による「ペットボトルキャップの回収」や「ベルマーク」収集に力を入れ、活動の中で自然と「持続可能な社会」に対する関心が高まるように支援していく。	【達成状況】生徒の肯定的回答が 80.7%で、前年度を 6.6 ポイント、市平均を 2.4 ポイント、指標値を 0.7 ポイント上回った。新しい評価項目となって 3 年目、初めて数値指標を達成した。リユースやリサイクルなど家庭生活や学校生活に根付いてきたことがうかがえられる。 【次年度の方針】現代社会において欠かせないワードである。社会科や理科、道徳科、総合的な学習の時間等を中心に主体的に学ぶことを大切にしながらしっかりと指導する。また、生徒会活動において、子供服やペットボトルキャップの回収等、具体的な活動を通して体感的に学ばせていく。
B2 生徒は、学級での活動、生徒会活動、学校行事に自主的に取り組み、自分の役割や責任を果たそうとしている。 【数値指標】全体アンケートで同様の設問の生徒の肯定的回答 90%以上	① 学級での活動、生徒会活動、学校行事等で、生徒が自主的に活動や運営に取り組む場を設け、その役割や責任を果たすよう支援することによって、生徒の自主的・主体的な生活態度、自治意識などを高めていく。	【達成状況】生徒の肯定的回答が 94.7%で、前年度を 1.0 ポイント下回り、指標値を 4.7%上回っている。学校独自の評価項目であるため市平均は出ない。 【次年度の方針】生徒会活動はもとより、学級活動や学校行事等を教職員の支援のもとで生徒が自主的、自発的に活動できるように計画し、実践していく。諸活動を行っていく中で、生徒の自主性や責任感等を養っていく。
B3 生徒は、健康を大切にし、各種検診等で指摘された場合は医療機関で受診している。 【数値指標】全体アンケートで同様の設問の保護者の肯定的回答が 90%以上	① 生徒会保健体育委員会の活動や保健体育科の授業を通して「健康の大切さ」について考えさせ、指導していく。 ② 養護教諭を中心に、「保健だより」等において「健康体力の向上」に役立つような記事を多く載せ、啓発していく。 ③ 各種検診で受診を求められた生徒に対して、保護者への通知や電話連絡等で受診を勧めていく。	【達成状況】保護者の肯定的回答が 95.0%で、前年度を 2.2 ポイント、指標値を 5.0 ポイント上回った。学校独自の質問のため、市平均は出ていない。 【次年度の方針】生徒会の保健体育委員会の活動や保健体育科の授業を通して「健康の大切さ」について考えさせ、指導していく。また、保護者とも連携し、各種検診で要治療の指摘があった場合には治療を受けるよう啓発していく。
B4 生徒は、授業で分からないことについて、先生に質問している。 【数値指標】全体アンケートで同様の設問の生徒の肯定的回答が 85%以上	① 「主体的・対話的で深い学び」の実現には、授業等で分からないことについて先生に質問するなど主体的に学ぶことが大切である。個に応じたきめ細かな対応や、適切な質と量の家庭学習課題の定期的な提示やその確認に努める。 ② 教職員が今年度から完全実施される新学習指導要領を理解し、授業力の向上を目指した研鑽と修養に励み、分かりやすい授業の実践を通して生徒との信頼関係を築くことにより、生徒が先生に質問しやすい雰囲気を作り出していく。	【達成状況】生徒の肯定的回答は 86.6%で前年より 1.8 ポイント下回り、指標値より 1.6 ポイント上回った。学校独自の質問のため、市平均は出ていない。 【次年度の方針】「主体的・対話的で深い学び」が新学習指導要領において強調されている。授業等で分からないことについて教職員に質問するなど主体的に学ぶことが求められている。まずは、教職員が、新学習指導要領をしっかり理解し、授業力の研鑽と修養に励む。分かりやすい授業を通して、信頼関係を築き、質問しやすい雰囲気を作り出していく。

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする生徒や外国人生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている」⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 週1回の教育相談部会を充実させ、特別な支援を必要とする生徒の実態を共通理解していくと共に、具体的な支援策を立て、全職員に周知し、実践していく。支援策の検討に当たっては、SCやMSの指導、助言を十分に生かして実施していく。 ② 校内支援の推進と充実のために、市教育センターなどの専門機関による相談機関や医療機関等との積極的な連携を図り助言を得る。	B 【達成状況】教職員の肯定的回答は 91.8%で前年度と同ポイント、市平均を 3.0 ポイント下回り、指標値を 1.8 ポイント上回った。 【次年度の方針】毎週1回の教育相談部会を充実させ、特別な支援を必要とする生徒の実態を共通理解していくと共に、具体的な支援策を立て、全職員に周知し、実践していく。支援にあたっては、SCやMS、市教委や市教育センター、児童相談所等の関係機関、医療機関等からの助言、指導を十分に生かして実施していく。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれている」⇒生徒の肯定的回答 90%以上	①〇全教職員が「いじめはどの生徒にも起こりうる」との認識のもと、生徒の授業中の様子や、休み時間・給食時等の様子をよく観察し、些細な変化や、周囲の好ましくない雰囲気等を敏感に察知するよう心掛ける。 ② いじめの未然防止に向けて、日頃から実践している年に4回行う早期発見のためのアンケートや、自分たちの問題として捉えその解決に向けて自主的に行動する生徒会生活安全委員会が行ういじめ根絶集会等の様子を学校HPや学校・学年だより等を通して保護者や地域に発信していく。	B 【達成状況】生徒の肯定的回答が 95.9%で、前年度を 1.5 ポイント、市平均を 0.5 ポイント上回り、指標値は 5.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】全教職員が「いじめはどの学校でも、どの生徒にも起こりうる」との認識のもと、生徒の授業中の様子や、休み時間・給食時等の様子をよく観察し、些細な変化や、周囲の好ましくない雰囲気等を敏感に察知するよう心掛ける。そして、そのことを担任や学年主任、生徒指導主事等に報告、相談し、具体的に聞き取りなども行い、早期発見、早期対応、再発防止に努める。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、生徒がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」⇒生徒の肯定的回答 90%以上	①全ての生徒にとって居がいのある、温かい雰囲気の学級経営に努める。 ②〇小中一貫教育・地域学校園として小学校低学年のうちから不登校の傾向の見られる児童に対する適切な支援を小中が連携して検討、実施していく。 ③ 不登校傾向の表れてきた生徒に対しては、早期に週1回の教育相談部会で状況報告、支援策の検討を行い、全職員の共通理解の基で学級担任が中心となって家庭と密に連携を取りながら支援を進めていく。	B 【達成状況】生徒の肯定的回答が 93.3%で、前年度を 1.8 ポイント、市平均を 1.3 ポイント下回り、指標値を 3.3 ポイント上回っている。新型コロナウイルス感染症を危惧し登校をためらう生徒が多くなったが、生徒は学級担任が安全・安心で、居がいのある学級経営を行っていることを認めている。 【次年度の方針】<u>小学校から中学校に進学する時期にいわゆる「中一ギャップ」による不登校が増えるケースが多い。小学校との連携を強化し、切れ目のない支援を行うことが大切である。</u>また、夏休みなどの長期休業の後も同様である。いずれにしろ、教職員が家庭との連携の基で、些細な兆候も逃さずに互いに報告、相談を行う。更に毎週1回の教育相談部会を活用し、不登校傾向の見える生徒については早期に対応策を検討し、実際に行っていく。

A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート（A13 共通）「教職員は、特別な支援を必要とする生徒や外国人生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている」⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 外国人生徒の実態に応じて、週1回の教育相談部会で状況の報告、支援策の検討を行い、全職員の共通理解の基で適切な支援、合理的な配慮を行っていく。 ② 週に1時間は、該当生徒に対して市教委の指定した日本語指導講師に日本語の指導を積極的に受けさせる。 ③ 学級、学年を中心に、該当生徒を温かい雰囲気迎え入れることのできる環境を整えていく。	【達成状況】教職員の肯定的回答は 91.8%で前年度と同ポイント、市平均を 3.0 ポイント下回り、指標値を 1.8 ポイント上回った。 【次年度の方針】最も大切なことは該当生徒を温かく迎え入れることのできる集団作りである。該当生徒の日本語能力等の実態に応じて、教職員が共通理解を図り、日本語指導の外部講師も含めた対応策を検討し、寄り添う姿勢を忘れずに実践していく。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケート「私は、今の学校が好きである」⇒生徒の肯定的回答 90%以上	① 学級での係活動、生徒会活動、部活動等で、生徒の自主的な活動意欲を高め、責任感や向上心を育てる。 ② 校訓「自主創造」を学校行事や生徒会行事の企画運営に生かすために、リーダー育成に力を入れ、生徒の自主的・主体的活動を積極的に取り入れながら、明るく活気のある教育環境の充実に努める。	【達成状況】生徒の肯定的回答が 86.6%で前年度を 0.2 ポイント、市平均を 1.0 ポイント、指標値を 3.4 ポイント下回った。コロナ禍のため様々な活動に制限があったことが肯定的回答低下の要因とも考えられる。 【次年度の方針】「やらされる活動」ではなく、生徒が自ら進んで「自主的、自発的に行う活動」となるよう、各行事や学級活動等を計画し、生徒の達成感、自己有用感を高めていく。けじめをつけ、秩序ある学校生活を基本とするが、その中にも笑顔あふれる授業や行事等を織り交ぜていく。
A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒生徒の肯定的回答 90%以上	① 「主体的・対話的で深い学び」の実現と分かる授業の展開を目指す。そのために教員相互で授業を公開し合う「校内公開授業」や要請訪問による研究授業や授業研究会を通して授業力向上に努める。 ② 少人数・習熟度別学習、T・Tによる授業の内容・方法等の研究、全校体制で取り組む特別支援教育の充実等を通して、個に応じた学習の推進を図る。 ③ 新学習指導要領の完全実施により、新たな教科書や取り扱う教材・教具（1人1台端末を含む）や評価方法の研究にも積極的に取り組む。	【達成状況】生徒の肯定的回答が 93.9%で、前年度を 1.3 ポイント、市平均を 0.9 ポイント、指標値を 3.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】新学習指導要領に準拠した「主体的・対話的で深い学び」を重視しつつ、生徒にとって「分かりやすく、一人一人に丁寧に教えていく」授業を実践していく。特に数学や英語については少人数・習熟度別学習やT・T授業等を行い、個に応じた学習指導の推進を図る。また、取り扱う教材・教具（1人1台端末を含む）や評価方法の研究にも更に積極的に取り組む。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートで同様の設問の教職員の肯定的回答が 90%以上	① 学校長を中心とした「チーム学校」の考え方の基で、教職員が保護者や地域の力を借りながら、生徒のために一つの方角に向かって一致団結して教育活動を行っていきける環境を整えていく。 ② 週1回の校務運営委員会において、懸案事項を協議し、具体策を検討し、職員の共通理解の基でチームとして対応していく。	【達成状況】教職員の肯定的回答が 95.9%で、前年度を 2.1 ポイント下回り、市平均を 5.3 ポイント、指標値を 5.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】「チーム学校」の考え方の基で、教職員が保護者や地域の力を借りながら、生徒のために一つの方角に向かって一致団結して教育活動を行っていきける環境を整えていく。また、楽しく仕事ができるような職員室づくりに全職員が心掛けていく。

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートで同様の設問の教職員の肯定的回答が80%以上	① 全職員の健康を守るためにも、出勤時刻の把握を管理職が徹底し、全体的に時間外勤務が多い場合には、週1回の校務運営委員会で原因と対策等を協議、検討し、ICTの活用や削るべき仕事は思い切って削っていくなど、業務の効率化を図る具体策を講じていく。 ② スクールサポートスタッフやICT支援員など専門スタッフと連携し、教職員の負担軽減に取り組む。 ③ 個人的に時間外勤務が多い職員に対しては、管理職が周囲の職員等から情報を収集し、原因等をある程度把握した上で個別に面談を行い、業務を効率化していくための指導・助言を行う。	A 【達成状況】教職員の肯定的回答が59.2%で前年度を8.8ポイント、市平均を6.7ポイント下回り、指標値には20.8ポイント及ばなかった。前年度大きく上昇した評価項目であったが、コロナ禍のため行われなかった学校行事や部活動の大会などが再開されことやGIGAスクール構想の導入など教職員への新たな負担が原因と考えられる。 【次年度の方針】コロナ禍により必然的に業務内容の精選や削減の検討が行なわれることになったが、今後も継続して業務の効率化に努力する。また、勤務時間の長い教職員に対しては適切に助言、指導を行い、効率的な業務遂行を進めさせる。「業務を改善して勤務時間を短くすることから、勤務時間を短くしてその中でできる業務を考える」という発想の転換を浸透させる。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケート「小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている」⇒保護者の肯定的回答85%以上	① ○小中一貫教育を推進するために、地域学校園各小学校との情報交換及び、乗り入れ授業をはじめとした連携の推進に努める。 ② 「小中一貫教育・地域学校園」の取組内容について理解してもらうため、学校HPなどに活動の様子を掲載・更新に努め、各種たより等を発行することによって啓発と更なる協力を求めていく。	B 【達成状況】保護者の肯定的回答が80.6%で、前年度を3.1ポイント、市平均を3.0ポイント、指標値を4.4ポイント下回っている。 【次年度の方針】保護者の評価を指標とする限りは「小中一貫教育・地域学校園」の取組内容について理解してもらう必要がある。学校HPなどに活動の様子をこまめに発信したり、各種たより等を発行したりすることによって保護者や地域への啓発を進め、協力も求めていく。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】全体アンケート（A23 共通）「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」⇒生徒の肯定的回答85%以上	① 1学年においては、「総合的な学習の時間」における「農業体験」や「職業人に学ぶ」の授業等を通して、地域の方々の教育力と学校が連携して特色ある教育活動を展開していく。 ② 2学年においては、「社会体験学習（宮っ子チャレンジ）」を通して、地域の企業等と連携しながら、キャリア教育をすすめる、特色ある教育活動を展開していく。 ③ 3学年においては、「保育体験」の授業等をより充実させ、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開していく。	B 【達成状況】生徒の肯定的回答が83.3%で前年度を2.2ポイント、市平均を3.9ポイント上回り 指標値を1.7ポイント下回っている 【次年度の方針】1学年における「農業体験」や「職業人に学ぶ」の授業、2学年における「社会体験学習」、3学年における「保育体験」の授業等をより充実させ、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開していく。また、地域に対する感謝の気持ちを育んでいく。

A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート（A22 共通）「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」⇒ 保護者の肯定的回答 85%以上	① 宮の原中学校地域協議会の提言等を取り入れた教育活動の推進、地域の行事等への生徒のボランティア参加を通して、家庭や地域、企業等と連携を図った生徒の健全育成に努める。 ② 諸活動や取組内容について理解してもらうため、学校ＨＰなどに活動の様子を掲載・更新に努め、各種たより等を発行することによって啓発と更なる協力を求めている。	B 【達成状況】保護者の肯定的回答が 88.1%で、前年度を 4.3 ポイント、市平均を 2.9 ポイント、指標値を 3.1 ポイント上回っている。 【次年度の方針】地域協議会の活動、地域の行事等への生徒のボランティア参加、地域の企業等と連携した社会体験や保育体験等の諸活動を学校ＨＰや各種たよりに掲載したりすることにより、活動内容の周知や活動への理解と協力を得ることに努めている。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケートで同様の設問の教職員の肯定的回答が 90%以上	① 施設・設備面（ハード面）としては、校舎や体育館入口へのスロープ、階段の手すりや足下の滑り止め、エレベーター、多目的トイレの設置などを公的機関と連携して行っている。 ② 生徒指導面（ソフト面）としては、校舎内で走ったり暴れたりしないこと、廊下の右側通行、落ち着いた態度で授業を受けること、安全に十分に配慮した部活動の実施等の指導を徹底していく。	B 【達成状況】教職員の肯定的回答が 95.9%で、前年度を 2.1 ポイント下回り、市平均を 1.6 ポイント、指標値を 5.9 ポイント上回っている。また、本校体育館が災害時の避難所になるため避難者初期支援マニュアルもコロナ禍を受けて今年度改訂した。 【次年度の方針】本校のテニスコートは地面から小石が露出している部分が多く安全面で心配である。また、校庭の大きさから考えた場合に、野球やサッカー、陸上競技などの部活動を同時に行うためには防球ネットの整備が欠かせない。それらの対策を市教育委員会や本校ＰＴＡと連携しながら改善に取り組む。また、日頃より、生徒指導部を中心に校内環境を整えると共に、生徒への安全教育には更に力を入れていく。
A25 学校は、学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。 【数値指標】全体アンケート（A10 共通）「生徒は、パソコンや図書等を学習に活用している」⇒ 生徒の肯定的回答が 85%以上	① 「技術」の授業にとどまらず、各教科各領域等で１人１台端末を積極的に活用し、「職業調べ」や「京都・奈良の寺社調べ」及び発表のためのプレゼンテーションソフトでの資料作りなどを行う。 ② 校内ネットワーク環境と１人１台端末が整備され、校内での活用だけでなく家庭への持ち帰りも可能になり、各家庭で活用する教材も充実させる。 ③毎朝、読書の時間を 10 分間設けるとともに、図書室の開放、図書室からの回覧文庫、学級文庫などを有効に活用させ、読書の習慣化を図り、豊かな心を育んでいく。	B 【達成状況】生徒の肯定的回答が 79.6%で、前年度を 12.9 ポイント上回り、市平均を 4.4 ポイント、指標値を 5.4 ポイント下回っている。 【次年度の方針】１人１台端末を、各教科・各領域だけでなくあらゆる学校活動において積極的に活用する。そのためには、<u>指導する教職員側の研修を充実させ</u>、校務等にも積極的に活用する努力を行っていく。また、図書室の図書を充実させ、積極的な活用を促す。

	B 1 教職員は、自己の役割と責任を自覚しながら、連携と協力を通して、明るく活気ある職場作りに努めている。 【数値目標】全体アンケートで同様の設問の教職員の肯定的回答が90%以上	① 職員会議、校務運営委員会、学年会、時間割に位置づけた生徒指導部会や教育相談部会等を通して、職員間の共通理解を深め、協力・連携に基づいて協働で職務の遂行にあたる体制づくりに努める。 ② 一人一人が意識して「明るく活気ある職場作り」に努めるとともに、「報・連・相」がスムーズに行える「風通しのよい職場」を作り出していく。	B 【達成状況】教職員の肯定的回答が93.9%で、前年度を4.1ポイント下回り、指標値を3.9ポイント上回っている。学校独自の質問のため、市平均は出ていない。 【次年度の方針】教職員が「明るく活気ある職場」で働いているということは自ずと生徒に好ましい影響を与え、良き教育活動が行えるのは自明の理である。多くの教職員が本校を職場として「働きやすい」と認識しているということで、今後もこのような高い数字が維持できるよう、更にお互いを助け合いながら「風通しのよい職場」を意識していく。
本校の特色・課題等	B 5 教職員は道德教育の推進を通して、生徒と教師の相互理解に基づく温かい人間関係づくり、心豊かな生徒の育成に努めている。 【数値指標】全体アンケート「先生方は道德の授業を熱心に行い、私たちの温かい人間関係づくりや豊かな心の育成に努めてくれる」の生徒の肯定的回答90%以上	① 学年体制で取り組む道德研究授業と校内研修（特に評価の方法）、全時間分の資料と展開例の整備と活用等を通して、教職員一人一人の指導力向上に努める。 ② 道德の授業と日常の教育活動の関連を図った指導を通して、生徒の道徳性を育むとともに、学校生活の向上や生き方の探求に努めようとする態度を育てる。 ③ 保護者に本校での取組を知ってもらうために、学校HPを利用した情報発信を今後も続けるとともに、授業参観や学校公開で道德の授業を参観できる機会を検討する。	B 【達成状況】生徒の肯定的回答が93.9%で、前年度を2.7ポイント下回り、指標値を3.9ポイントも上回っている。学校独自の質問のため、市平均は出ていない。 【次年度の方針】元々本校は道德教育に力を入れてきたが、「道德」が教科化されたことで、更に生徒が「先生方が道德の授業を熱心に行ってくれている」と感じてくれている数値が出ている。教科化された道德の授業に関しては、年間指導計画（自校化）にし、授業の展開法（特に授業ごとの課題の提示と振り返りを必ず行う）や評価法にし、たくさんの課題がある。外部や校内での研修を充実させ、教職員の授業力を高めていく。また、公開授業等で保護者に実際に参観してもらい、アンケート等で意見や感想をもらい、授業に生かしていくようにしていくことも大切である。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【総合的な良い点】評価者である教職員、保護者、地域住民、生徒の肯定的回答が**80%を超える項目が74項目中62項目83.8%**にも及んでいる。また、肯定的回答が**市の平均より高い項目が60項目中38項目63.3%**に及んでいる。これらのことは、本校の教育活動が総合的に「肯定的に受けとめられている」ことを表している。

【具体的な良い点】目指す生徒の姿として、**特に肯定的回答が高い項目が、「中学生としての根幹を成す人間的な部分」であることが本校の特徴**であり、誇れる部分と言える。具体的には、他校勤務経験があるため客観的な評価ができる教職員による評価で良い項目がA1「生徒は、進んで学習に取り組んでいる」（本校98.05%、市平均96.7%）、A3「生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている」（本校95.2%、市平均92.2%）、A4「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」（本校95.9%、市平均88.6%）などである。これらが高い数値を示していることが、現在の本校が落ち着いて秩序のある中で正常な教育活動が日々行われている代表的な数値と言える。

また、目指す学校の姿として、A19「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」（本校95.9%、市平均90.6%）さらに、本校独自の質問項目で、市の平均は出ていないがB1「教職員は、自己の役割と責任を自覚しながら、連携と協力を通して、明るく活気ある職場作りに努めている」の**教職員の肯定的回答が93.9%**に達しており、多くの教職員が本校職場を「連携と協力があり、明るく活気がある」と認識してしてくれることは、生徒への教育に向かうエネルギーの前提としての居が、働きがいのある職場であるということを表していると言える。

【具体的な改善の必要な点】新学習指導要領に関わるアンケート項目の肯定的回答は依然として低いが、徐々に上昇してきた。例えば、A 9「生徒は、宇都宮の良さを知っている」（生徒肯定的評価：本校 78.3%、生徒市平均 81.3%）、A 1 2「生徒は『持続可能な社会』について関心をもっている」（生徒肯定的評価：本校 80.7%、生徒市平均 78.3%）、A 2 5「生徒は、I C T 機器や図書等を学習に活用している」（生徒肯定的評価：本校 79.6%、市平均 84.0%）などである。これらは、現代社会の課題の解決に向けて欠かせない質問項目であり、これらの数値を上げていく努力を本校はもちろん、市全体、国全体で進めていくべきであろう。

また、近年の「働き方改革」に関する質問項目 A 2 0「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」（本校 59.2%、市平均 65.9%）の肯定的回答が依然として低い。コロナ禍により前年度は必然的に業務内容の精選や削減が行われたが、今年度は学校行事や部活動の大会などが再開されたこと、更に GIGA スクール構想の実現に向けた新たな業務も加わり、再び教職員の負担が大きくなってしまったことは拭えない。

7 学校関係者評価

・特に肯定的回答が高い項目が、「中学生としての根幹を成す人間的な部分」であることは素晴らしい。秩序が守られ、落ち着いていながらも明るい雰囲気の中で、生徒の学校生活が送れていることは、おのずと学習成果は上がり、学校行事等も盛り上がり、部活動等の活躍も顕著となる大きな要因であろう。今年度は活動が制限され残念であったが、今後もそのような雰囲気を持ち続ける学校であってほしい。

・教職員が職場を「職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」「連携と協力がなされ、明るく活気がある」の肯定回答が非常に高いことが素晴らしい。教職員が伸び伸びと働けて初めて生徒の教育に真摯に向き合うことができるであろう。「風通しの良い職員室」を今後も続け、教職員にとって居がいや働きがいのある職場であってほしい。

・昨年度、保護者への 2 0 質問項目のうち 1 8 項目で前年度より肯定的回答率が上昇して驚いたが、今年度は更に 1 0 項目で昨年度より肯定的回答率が上昇した。コロナ禍でありながらも実施できた体育祭や合唱フェスティバルなどの学校行事などを学校だよりや学年だより、学校 H P でこまめに発信することで、学校への取組が保護者に理解されてきたと思われる。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・本校の教育活動や学校運営については、前年度までと同様に全体的に肯定的に評価されている。特に A 1「生徒は、進んで学習に取り組んでいる」、A 2「生徒は、思いやりの心をもっている」、A 3「生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている」、A 4「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」、などの質問項目が高い数値を示していることが、現在の本校が落ち着いて秩序のある中で正常な教育活動が日々行われている代表的な数値と言える。しかし、これらの項目は本校だけの指導によるものでなく、小学校低学年のうちから指導を繰り返していく必要があるため、今後も学校園における小中一貫教育に力を入れ、小学校との連携に努めていく必要がある。

・A 1 4「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」については、教職員（100%）や生徒（95.9%）の評価は高いが、保護者の評価（80.2%）は決して高いとは言えない。保護者にとって、「いじめ」については大きな関心事であり、心配事である。本校は、常に「いじめ」に関しては早期発見、早期対応、再発防止に努めており、小さなトラブルのうちから指導を入れていくよう共通理解が成されており、いじめの発生率は低く、発生した場合の解消率も高い。保護者に対して、保護者会や家庭訪問、三者懇談等を利用するなどの方策で、安心して本校に通わせることができることを説明すると共に、日頃よりトラブルが発生した場合には、小さなことでも保護者と個別に連絡を取り合い、協力を仰ぐことに力を入れていくことを大切にしていきたい。また、小学校とも連携し、小学生の頃の人間関係の情報もしっかり把握し、学級編制や学級の班編制等に十分な配慮を行っていく。

・A 1 7「学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」、A 1 9「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」、B 1「教職員は、自己の役割と責任を自覚しながら、連携と協力を通して、明るく活気ある職場作りに努めている」などで教職員の評価が非常に高い数値を示していることは、教職員にとって、本校職場が働きがい、居がいのある良好な状態にあり、風通しの良い職場であることを表していると考えられる。教職員が、良好な心身の状

態で生徒に向き合うことが、正常な教育活動が成されていく大きな要素である。今後も、教職員が気持ちよく働けるような雰囲気を協力しながら作り続けていくことを大切にしていく。

・A 9「生徒は、宇都宮の良さを知っている」、A 1 0「生徒は、I C T機器や図書等を学習に活用している」、A 1 2「生徒は『持続可能な社会』について関心をもっている」などの新しい質問項目は、現代社会の課題の解決に向けて欠かせない質問項目であり、徐々に数値が上昇してきた。本校においては更に校内研修の充実を図るなどの具体的な方策を取り また小中一貫教育において、小学校と連携していくことも重要となる。

・「働き方改革」に関する一昨年度からの新たな質問項目としてのA 2 0「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」については、肯定的回答が依然として低い。教職員の業務は果てしなく、どこかで妥協しなければ心身の健康へも影響も出かねない。今後は更に業務の効率化等に取り組み、勤務時間の短縮に結び付けていく必要がある。特に中学校においては部活動改革が、時間外勤務削減の大きな鍵であり、早急の課題である。